



開発が進み、近代的なビルが立ち並ぶ武漢市東湖高新技术開発区

日本企業専用地区の建設や運営への参加を希望する企業をシスプロが募り、今月下旬に現地を訪問。また入居希望者を対象に9月20日から24日まで現地視察団を派遣する。併せて同社は武漢市への日系企業進出支援事業を強化、今年11月をめぐりに武漢市東湖高新技术開発区でレンタルオフィスサービスを始めます。

東湖高新技术開発区の総面積は518平方キロメートルで第1期はほぼ開発済み。工業・技術開発団地に加え住宅や商業施設、

シスプロが企画運営

中国湖北省武漢市で日本企業専用の工業・技術開発団地の建設プロジェクトが動き出した。早ければ半年後に着工し2013年初めに入居できるようにする。場所は国家級開発区である武漢市東湖高新技术開発区第2期地域で、日本企業専用地区の面積は東京ドーム約7個分に相当する33万平方メートルを予定する。人材派遣・紹介サービスを手がけるシスプロ（大阪市北区、丸山茂社長、06・4796・4180）が湖北省、武漢市、同区委員会から企画運営を受託。経済成長が期待できる中国内陸部への進出を希望する日本企業の受け皿をつくる。

ホテルなどの総合的な街づくりが進んでいる。区内には電子機器の受託生産で世界最大手の台湾系企業フォックスコンが進出し、5万人規模の工場

を年内に10万人規模に拡大する計画がある。日本企業専用地区を設ける予定の第2期地域は全体で294平方キロメートル。武漢市の日系企業はホンダやフジクラなど約100社。上海市の約8500社に比べまだ少ないが、内陸部の成長市場を狙い中核都市である武漢市が注目されている。武漢市の人件費は上海市の

半分と沿海部に比べて安い。企業進出増加を見越して日本貿易振興機構（JETRO）が内陸部の拠点として武漢事務所を3月に設け7月に開所式を催した。

シスプロは09年に武漢市東湖高新技术開発区に進出し、オフィス業務代行サービスなどを行っている。業務拡大に伴い区内の4カ所に点在するオフィスを、建設中の「光谷ソフトウェアパーク」の新ビルに集約。11月にも始めるオフィスレンタルサービスでは1フロア1600平方メートルを使用する。同社が人材の採用から給与計算、データ入力などオフィス業務支援、政府機関などへの申請支援など総合サービスと共同にオフィスを出す。

中国内陸に日本企業団地 33万²m²、武漢で13年開設

シスプロは09年に武漢市東湖高新技术開発区に進出し、オフィス業務代行サービスなどを行っている。業務拡大に伴い区内の4カ所に点在するオフィスを、建設中の「光谷ソフトウェアパーク」の新ビルに集約。11月にも始めるオフィスレンタルサービスでは1フロア1600平方メートルを使用する。同社が人材の採用から給与計算、データ入力などオフィス業務支援、政府機関などへの申請支援など総合サービスと共同にオフィスを出す。